

「今年の漢字」ひと文字を年の初めに考える ～3学期始業式～

1月9日(木) 3学期始業式 学校長式辞から抜粋

みなさんは「今年の漢字」が毎年選ばれるのを知っていますか。

「今年の漢字」は、年末に日本漢字能力検定協会がその年の世相を表す漢字ひと文字を一般から募集し、最も多かった字が選ばれます。その漢字を清水寺の偉いお坊さんが大きな和紙に筆で書く様子がテレビのニュースでも放映されます。

平成から令和となった昨年は、新しい元号、令和の「令」の文字が選ばれました。漢検協会は「令」が選ばれた理由として新しい元号の「令」和に明るい時代を願う国民の思いが集約されたとしています。さらに法「令」改正による消費増税や芸能界で起きた闇営業、薬物使用などの問題で法「令」順守が重視されたこと、自然災害で警報や避難勧告の発「令」が相次いだことも挙げています。

私は、「今年の漢字」を年の初めに考えることも良いのではないかと思います。今年1年をどんな年にしたいかとか、こんなことを心がけて1年を送りたいとか、こんなことが大切だと思っているという気持ちを表す漢字を年の初めに考えたらどうでしょうか。

ちなみに私の「今年の漢字」ひと文字は、「楽しい」という字、「楽」です。思い通りにならないことはたくさんあるけど、不平不満を言っても何も解決されません。どうせやるなら楽しくやりたいものです。楽しくないと続かないし、身に付かないので、むずかしいことでも、しんどいときでも楽しくする方法がないか工夫したいと思います。

でも、「楽しい」と「楽(らく)」は、字は同じだけど中身は全く異なります。楽なことだけを求めていると、結局楽しくはならないのではないかと思います。そして、「楽しそうならやろうかな」ではなく、「自らやるからこそ楽しくなる」のだと思っています。

さて、みなさんは「今年の漢字」にどんな字を選びますか。2020年が、自分を一回り大きく成長させる新しい1年となることを願っています。

成長とは、自分が今までにやったことがないことをやってみること、今までできなかったことができるようになることです。自分を成長させるためには、何かに挑戦することが大切です。ぜひ、いろいろなことに興味を持って、好奇心旺盛に新しいことに挑戦してほしいと思います。

三木高生として、3年生は三木高校の卒業生として、さらに一步前進・一回り大きく成長する良い年にしていきましょう。

(校長 高橋信之)